

# 77回『謳粹会』の記

会長 篠田 康

開催 日時 平成17年1月13日(木)  
場所 末広町『花ぶさ』

皆様明けましておめでどう御座います。平成17年の新春をご家族お揃いで、健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

お陰を持ちまして『謳粹会』も七回目の正月を迎えることができました。これも偏に皆様方の絶大なるご支援ご協力の賜物と深く感謝しております。尚、今後とも『謳粹会』の更なる発展のために宜しく願い申し上げます。

本年最初の会場は、末広町の『花ぶさ』で行われました。このお店は、ご案内にも書きましたが、池波正太郎先生の愛されたお店で、本日戴いた会席料理の「千代田膳」も池波先生がその名付け親だと聞いております。

最近、正月と言っても、デパートを始め、大方の店が二日から営業をしているし、若い娘さんの日本髪に着飾った艶やかな振り袖姿も見られなくなり、三ヶ日は雑煮で祝うと言うことも若い人達には歓迎されないようだ。七日までは松の内と言ったが門松を飾らない現今では、松のひと枝を門に残してお餅を上げたことなどが懐かしく思い出される。それでも、七草粥の食材などはデパートでも売られていて、昔を懐かしむ老いの心を幾分慰めてくれる。十一日は鏡開きで、御供え餅を割って作るお汁粉は各家庭でも行われたが、職場でもお汁粉が振る舞われ、特に各銀行では、この日お客様にお汁粉接待のサービスをした。甘い物好きな人は銀行を巡って食べ歩いたなどと聞いたのも遠い昔の思い出になってしまったし、十五日の小正月の行事も忘れられたようで、日本の正月は何処かへ行ってしまった寂しい感がある。

それでも今日は、年の初めの新年会。22名の方が出席されるというので、心躍らして1時間前に会場に着きました。程なく皆藤祐治(昭和31年卒)さんの姿を見た時は、驚く程嬉しかった。腰痛が酷くなり、去年の四月から休んでおられ、味に強い思いの方だけに、会誌を見るのは辛いだろうと、最近は発送を控えて居りましたので、会に復帰されたのは大きな喜びでした。続いて、甲田三重(昭和41年卒)さんが来られて、申し込んで無いが、時間が空いたので出席したと言うことでした。早速、座席を23に一つ増やして貰いました。

その後、皆様追々に出席されて、お酒の持ち込みを電話で問うて来た田村恒(昭和31年卒)さんも見え、持ち込みの出来ないのを残念がっていましたが、次回にお願いしました。横手一郎(昭和31年卒)さんは、雑誌「サライ」の池波先生の味の特集を持参して、その中に『花ぶさ』の掲載されているのを見せて頂き、中に「千代田膳」が写真入りで献立が載っておりました。又、中島忠男(昭和41年卒)さんも二月以来のお顔拝見で、ずっと欠席されておりました。お仕事が忙しかったのではと思っておりましたが、二度ほど入院した言うことで、ご無理をなさらずに、今後もお出席をお願いしました。

定刻になり、「まだ一人菊池清(昭和31年卒)さんがお見えになりませんが、そ